

谷口元（たにぐち・はじめ）先生



一般社団法人日本音楽出版社協会 専務理事
国際音楽出版社連合 理事
株式会社東京谷口総研 代表取締役社長

【最終学歴】 米国 テネシー州 ベルモント大学 コマーシャルミュージック学部卒業

【主要経歴】

1986年 8月 株式会社エイプリル・ミュージック(現 株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ)入社、出版部所属
1994年 10月 エイベックス・ディー・ディー株式会社(現 エイベックス・エンタテインメント株式会社)入社、国際業務担当部長
1995年 3月 株式会社プライム・ディレクション 取締役
1996年 7月 エイベックス・ディー・ディー株式会社 取締役 国際本部国際部長
1998年 7月 社団法人音楽出版社協会 理事
2001年 10月 社団法人日本音楽著作権協会 理事
2004年 6月 社団法人音楽出版社協会 専務理事
2005年 4月 エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 取締役 国際戦略室長 兼 知財戦略室長
2009年 11月 社団法人音楽出版社協会 理事副会長
2009年 12月 内閣府知的財産戦略推進本部コンテンツ強化専門調査会 委員
2010年 4月 エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社 代表取締役社長
2010年 6月 社団法人音楽出版社協会(現 一般社団法人日本音楽出版社協会) 会長
2010年 7月 財団法人音楽産業・文化振興財団 理事
2010年 9月 財団法人音楽産業・文化振興財団(現 一般財団法人音楽産業・文化振興財団) 副理事長
2012年 1月 国際音楽出版社連合(ICMP、在ブリュッセル) 理事(現職)
2012年 3月 内閣府知的財産戦略推進本部 音楽産業海外展開促進タスクフォース委員
2014年 7月 一般社団法人日本音楽出版社協会 専務理事(現職)
2014年 10月 株式会社東京谷口総研 代表取締役社長(現職)

《講義概要》

本講座の寄附元の一つでもある、一般社団法人日本音楽出版社協会専務理事の谷口元氏が、「音楽産業 海外の現状」と題して講義を行った。

講義ではまず、I F P I (国際レコード・ビデオ製作者連盟) の 2013 年年次レポートに基づき、海外から見た日本の音楽産業について話した。I F P I のレポートでは、2013 年日本の急激な失速により全世界における音楽産業の収入が 3.9%低下したと報じた。海外の国々ではデジタル配信による収益が上がったが、日本はガラケーからスマホへの移行期が重なり、着うた配信によるデジタル収入の減少や、Spotify に代表されるデジタル配信サービスの導入の遅れにより、日本はデジタル化に消極的あるという見方がとられた。

海外の国々では、パッケージ売上が減少し、利益が少ない音楽のデジタル配信の売上に頼らざるをえないのが現状である。しかし、日本は依然として世界第 2 位の音楽売上を誇っている。これは、日本は音楽ファンが音楽に対して経済的価値を見出しているためパッケージ市場が維持され、デジタル配信サービスの導入に対して、サービス開始後の後戻りはできないとして既存のレコード産業が海外の動向を静観しているからであると述べた。

続いて日本の音楽の海外進出について、2010 年の「知的財産推進計画」を挙げた。音楽は他の文化コンテンツと親和性が高い。アニメ・俳優・ゲームなど既に海外で受けている日本のコンテンツと組み音楽をマネタイズすることや、音楽著作権の面での海外アピールを考えることで外貨獲得を考えなければいけない。

講義後半では、事前に出された受講生からの質問に回答する形で、授業を進めた。受講生からは、海外と日本の差異や日本のアーティストの海外進出について多くの質問が挙がった。特に、日本独自のコンテンツであるアニソンやアイドルを始め、海外で喜ばれるアーティストは増加している。現在、点で終わっている海外進出を、どう線につなげていくかが今後の課題であると話した。また著作権についても触れ、録音音源市場上位国のほとんどは著作権存続期間が 70 年であるが、日本・カナダは 50 年である。海外の現状に合わせないと、自国のクリエイターを保護出来ないのではないかと言及し、講義を終えた。

受講生からは、海外と日本の音楽産業の現状について多くの感想が寄せられ、特に Spotify の導入や音楽産業のデジタル化については、賛成する声がある一方で、海外の波に飲まれているだけなのかも知れないという声も挙がった。

